

とよ・たあ

美肌通信  
10月 Vol.87



おは「竹」♡

たあ  
♡こ♡

# 10月



今月号の表紙は、

かわいい女の子と、おぼけとかぼちゃが  
楽しそうにハロウィンパーティーをしている  
絵です。手に持っているかきも

おいしそうですね😊

幼稚園に行く事が大好きで、

好きな食べ物は、きゅうり、おみそ、たけのこ  
さくらんぼ、<sup>の</sup>私も大好きなものです!!!

たろかお皮ふ科に行く事が楽しみなん  
です! いつもニコニコしながら来て  
くれる女の子が、かいてくたさいました♡

院長はじめ スタッフ一同

心より感謝いたします。

ありがとう

ございませ



何故、あの人の方が私より評価される？ 何故、あの人の方が私より給料が高い？ 何故、あの人は他人に好かれる？ 何故？ 何で？ こう思う人が次に考える事は、他人の芝生を青く見る事です。この考えは改めるべきです。何故なら世の中は平等ではなく、実際は公平に出来ているからです。その結果、公平な考えのもとで差が生じてくる。それがルール平等主義なのだと思う。

平等と公平を区別する例えがあります。子供がかけこをしました。それぞれ走る速さは違いますが、みんなよく頑張ったので最後は全員で手を繋ぎながら一斉にゴールし全員が一等賞ということにして全員に同じ賞を与えました。これが平等のイメージです。今度は先程と同じ様にかけこを行いました。各々の走る速さは運動能力の差によってゴールした結果に順位が付きました。一着の人から順位に応じて差がある賞を貰いました。このイメージが公平です。つまり平等とは、個人の資質・能力・努力・結果に関係なく報酬を一律に与えること。公平とは、

全ての人に機会が均等に与えられた上で成果をあげた順番に報酬が与えられる仕組みと言えよう。

もし、この世が平等な社会であったなら何が起きるでしょうか。個人の資質や後天的な努力・学習技術の習得などの差を認めず一定のものを分配するのが善(平等)だとする、出来ない人も出来る人と同じ、出来る人も出来ない人と同じ、普通の人もみんな同じであったなら、努力しなくても同じ、努力しても同じと、さぼる人達が増えるのではないのでしょうか。何れにしても利害得失の個人間の分配に対する平等と公平の兼ね合いや違いを正しく理解することは、社会国家が衰退するか否かにとって重大な要素の一つと言えるでしょう。

つまり社会や国家は公平でなくてはならない。これを平等と間違えて理解した者達が建国に参画したのが共産主義です。その結果はこれらの国の殆んかが破綻し、人間は平等という考え方で国をつくと、殆んどの人が最も低い能力の方にあわせた力しか発揮できない集団になるということが証明

されました。考えてみれば「当然」です。先に述べた通り、多く働いても少ししか働かなくても報酬が同じならば、多くの人間は次第に働かなくなるのは火を見るより明らかです。

一方、建国から現在に至るまでのUSに代表される資本主義では、成果により報酬の格差が生じます。それゆえ、人は競争意識が向上した結果社会生活が進歩し引いては全ての人の生命維持の底上げに寄与してきたとも言えるでしょう。動物社会に目を転じても同様で、知能が高いとされる種ほど、同種間で個体により格差が認められるのも興味深いことです。

しかしながら、全く自由に放任することで、社会や国家の発展が進んでいくのではありません。それは歴史が教えてくれます。人間は正常な格差が生じる様なルールを見つけなければなりません。この考え方が公平です。公平の定義にある様に、自らの努力次第で大きく成長(発展)出来る機会が均等に与えられている事が必要かつ重要なことです。

そして、その機会も、人種・国籍・身分・性別によって制限されるべきではなく、何人でも挑戦することが出来、かつ成果があれば当然評価されるシステムである必要があります。具体的には事業を起す時に理念や計画に参画されれば、例えば担保がなくともスタート出来る様なシステム(エンセル投資)など。Amazonの創業者であるジェフバゾスやYAHOO CEOであるマリッサメイヤーは起業当初エンセル投資家から資金提供を受けており、現在では彼等がエンセル投資家でもあるのです。

これらが全て、100%良い方向に機能しているとは言いきれませんが、少なくとも公平という概念が定義に基づいて忠実に機能すれば社会は良い方向に発展していくと思うのです。

日本は共産主義ではありません。資本主義国家です。従って公平でなければならず、平等ではありません。

院長、拝